

w3i

World Wise Web Initiative

ワールド・ワイズ・ウェブ・イニシアティブ
設立趣意書

「ワールド・ワイズ・ウェブ・イニシアティブ」 設立の目的

日本の「^{プレゼンス}存在感」が問われています。

総人口の21%以上を65歳以上が占める超高齢社会に世界で最初に突入しただけでなく、2万人近い犠牲者を出した東日本大震災、それに伴うスリーマイル島やチェルノブイリにも匹敵する福島原発事故を経験し、日本はいま、世界に例を見ない課題を数多く抱える「課題先進国」といえましょう。

くわえて、リーマン・ショックを引き金とする世界信用不安や昨年来からの欧州危機といった資本主義経済の綻び、アラブの春やウォールストリート占拠デモなど新たな活動主義の台頭、また「地球はすでに臨界点に達している」という国連環境計画の報告書等が訴える環境問題の深刻化など、こうした全世界的な課題とも無縁ではられません。

にもかかわらず、「ジャパン・パッシング」（日本素通り）という言葉があるように、世界における日本の存在感は低下傾向にあるのが実情です。しかしそうとはいえ、課題先進国として、また世界経済の一角を担うキー・プレイヤーとして、さまざまな課題の解決に貢献すべく、世界各国の知性と協働し、その成果を積極的に共有・発信していく責任を負っているはずです。

現在、日本の志ある産業人の方々のご支援の下、一橋大学名誉教授の野中郁次郎氏、多摩大学教授の紺野登氏らを発起人に、言わば「知のコモンズ」（知的共有財産）を創出する非営利研究組織「ワールド・ワイズ・ウェブ・イニシアティブ」（略称 w3i）を立ち上げる準備を進めております。

この w3i では、以下の3つに重点を置きながら、アリストテレスら古代哲学者に倣い、「トポス*」（topos）という議論の場を定期的に設け、「ワールドクラス人材のソーシャル・ネットワーク（ウェブ）の構築」を推し進めてまいります。

- ・世界的な課題の解決に資する学際的な議論の奨励
- ・産業人と研究者の知的協業や実践活動の支援
- ・上記のための人的ネットワークの形成

日本は、かつての自信を失ってしまったのかもしれませんが、ですが、思い出してください。日本は試練と格闘するなかで、「メタモルフォシス」（情態の変容）を遂げてきました。現在を次なる変容の充電期とするには、大局観と高い問題意識を持ち合わせた知的エリートが集まり、二元論や現状の裏返しといった安易な解決法に走ることなく、過去の賢人たちが実践してきたように、さまざまな意見や視点を取り込みながら、建設的な議論を交わすことが不可欠です。ぜひとも w3i にご理解ならびにご参画いただきたく、ここにお願ひ申し上げます。

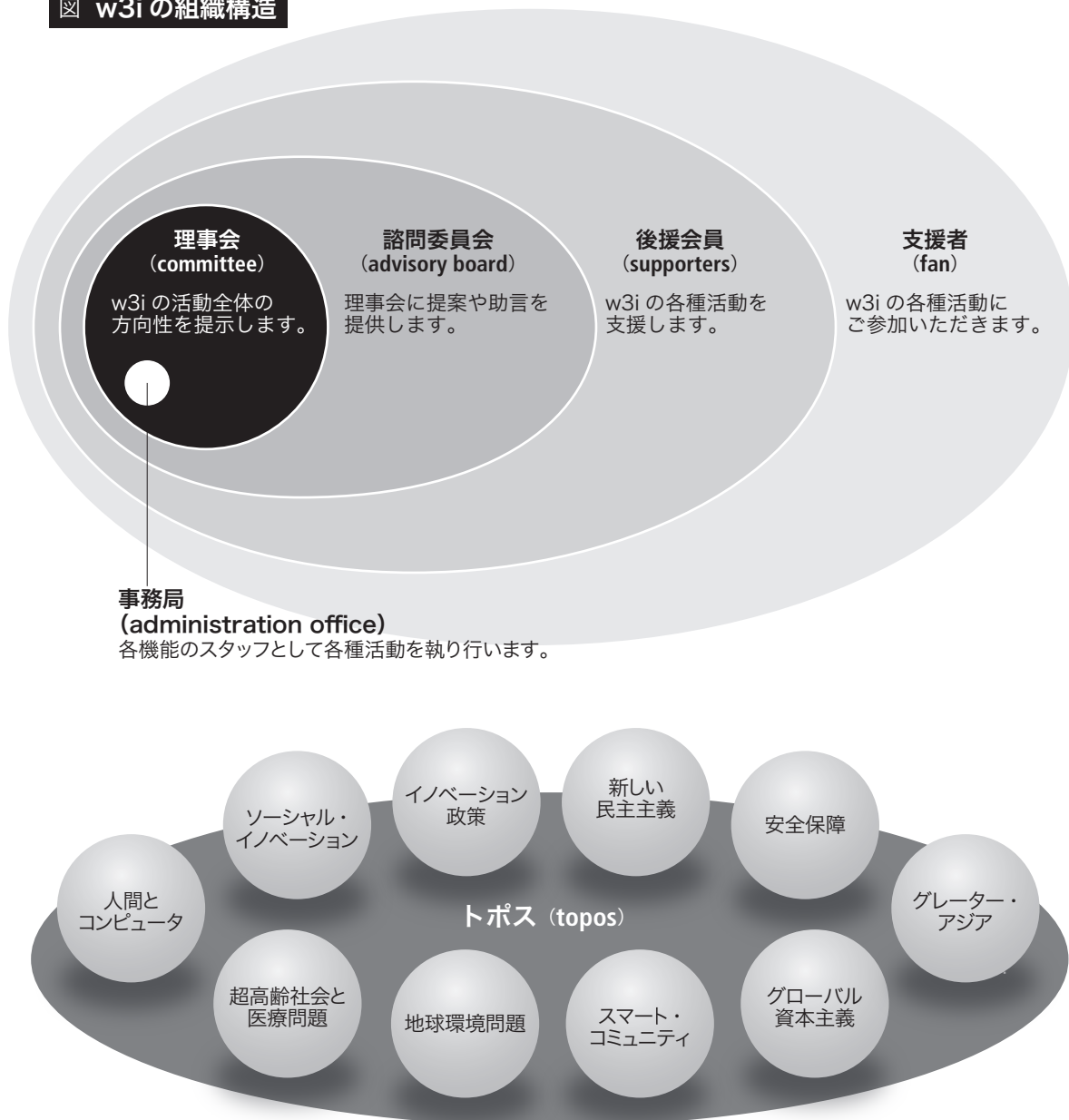
*ギリシア語で「場」という意味です。

w3i 活動の概要

w3i の大目的は、21 世紀にふさわしいイノベーション生態系を整備し、日本の社会と企業を再創造することにあります。したがって、産官学の連携による学際的コンソーシアムとして活動してまいります。具体的には、産業界のオピニオン・リーダー、さまざまな学術分野の権威やビジョナリーを招聘し、知的議論の場「トポス」の企画・運営、そこでの知的対話の記録と発信を行います。

w3i の組織構造は下図のように、w3i の活動全体の方向性を決定する「理事会」(committee)、理事会に提案や助言を寄せる「諮問委員会」(advisory board)、w3i の各活動を支援する「後援会員」(supporters)、これら活動に参加する「支援者」(fan)、そして以上の各機能のスタッフとして各活動を執り行う「事務局」(administration office)に分かれています。

図 w3i の組織構造



知的対話の場「トポス」の開催

人々が集い、そこで議論が始まり、時には論と論を戦わせながら、つながりが生まれる——。古代ギリシャでは、そのような場所、あるいは、そのような場所と結びついた知の記憶のことを、「トポス」と言いました。w3iでも、“Reshaping Japan, Asia, and the World”という全体テーマの下、世界各国に散らばる多面的な社会資本や知識資本との出会いとつながりを通じて、「21世紀における世界と日本の共進化」「知的生態系（エコシステム）としての日本の重要性の再発見」を促す場として、この「トポス」を開催し、そこでの議論を各種形式で記録・発信してまいります。

第1回（2012年9月）

「人間の知性とコンピュータ科学の未来——2040年、コンピュータは人間を超えてしまうのか」

第2回（2013年1月）

「幸福のイノベーション学——社会改革と経済活動は本当に両立するのか」

第3回（2013年3月）

「課題先進国『日本』のイノベーション戦略——世界から尊敬される国を目指して」

第4回（2013年夏）

「新しい民主主義は脅威か、救世主か——政治、経済、社会がどう変わっていくのか」

第5回（2013年秋）

「超高齢社会の論点——医療システム、社会システム、経済システムの近未来」

第6回（2014年春）

「グローバル資本主義の葛藤——ホモ・エコノミクスの罪と新しい資本主義の姿」

第7回（2014年夏）

「自然資本主義の時代——外部不経済を内部化するオルタナティブ社会への道程」

第8回（2014年秋）

「『グレーター・アジア 2.0』——日本と日本人はいかにリーダーシップを発揮すべきか」

第9回（2015年春）

「国と国とのつき合い方——日本は何を守り、どのように世界に貢献すべきか」

第10回（2015年夏）

「新しい日本人の育て方——ステレオタイプを排し、人づくり立国を目指す」

* 上記の第4回目以降のテーマは、設立準備段階における仮案であり、正式な設立後、コア・メンバーによる協議と理事会の承認により最終案が決定されます。

各回とも、多様な知のコラボレーションならではのダイナミズムを生み出すために、講演者同士、さらには講演者と参加者の間で双方向な意見交換を積極的に促してまいります。



◎お問い合わせ先

W3i 設立準備委員会事務局 (株)富士通総研 経済研究所
久野 純夫 (研究主幹) 浜屋 敏 (上席主任研究員、実践知研究センター副センター長)
吉田 倫子 (上級研究員) 大屋 智浩 (上級研究員)
電話 03-5401-8392 メールアドレス fri-w3i@ml.jp.fujitsu.com